

## (7) 3D アナトミーで見えた疑問と提案

～奥行き方向への整合性を経て～

医療福祉マネジメント学研究科医療福祉デザイン学専攻修士課程  
医療福祉マネジメント学研究科  
医療福祉マネジメント学部医療福祉デザイン学科  
川崎医療福祉大学非常勤講師

○原田 光  
横田ヒロミツ  
山形千星子  
佐々木和信

### 【目的】

人体とは人間にとって一番関心の高いもののひとつだが、その内部構造を視覚的に知るためのメディカルイラストレーション作成には、倫理的ハードルや著作権の問題がある。また、個人の偏った解釈による表現や誤解を生む可能性のあるものが散見される。このような現状において、国立がん研究センターから依頼があった、肝臓の「クイノー区域イラスト」を、可能なかぎり実証的フォルムをもとに、偏りの少ない抽象化を目指してメディカルイラストレーション表現を試みた結果と、その過程で遭遇した疑問点について述べたい。なお、クイノー区域イラストとは血管分布を中心とした内部区域である。

### 【方法】

DICOM データから普遍化した匿名加工情報をもとに、3DCG (3D コンピューターグラフィックス)

を使い、肝臓の外観、脈管系、クイノー区域の立体的メディカルイラストレーションを制作し、国立がん研究センター担当者に評価を受ける。

### 【結果】

- ・既存のイラストの模倣ではなく、できる限り事実に基づいた肝臓フォルムにクイノー区域や脈管などの抽象化した情報を加えることが可能となった。
- ・平面イラストと比較して、奥行き方向に対する整合性のある表現が可能となった。

### 【考察】

- ・立体的表現であることから、さまざまな角度からの整合性をとる必要があり、臓器構造への探究心、好奇心を深める可能性を確認できた。
- ・立体的表現制作では、平面表現では見過ごされる情報の矛盾や疑問に気づくことができる。